

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 香西の社寺を訪ねる

講師 立山 信浩

(下笠居・香西郷土史講座講師)

平成25年12月15日(日)

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 はじめに

香西こうせいは歴史的呼称としては、ときにカサイとも読まれ、時代により郡名、郷名、村名、浦名、町名として長く用いられた地名。

現在の香西は、大正四年（一九一五）二月十一日、中笠居村が香川郡香西町となり、さらに昭和三十一年（一九五六）九月の高松市への合併以後、香西五町になっている。

※ムキムキの町

香西の中心部では家並みと通りが一定方向に統一されておらず、ムキムキの町と呼ばれる。香西こうせい資村すけむら以後の香西氏歴代城主が、佐料さりょう本城や宇佐神社（藤尾城）への海からの外敵の侵攻に備えて、独特の歴史的都市形態すなわちムキムキの町並みを作ったといわれる。

※香西九か寺

藩政時代の香西には九つの寺があり、総称して香西九か寺といわれた。香西寺（地藏院）、万徳寺、広厳寺、大玄寺（釈迦院）、西光寺の真言宗五か寺。常善寺、長安寺の浄土真宗二か寺、

浄土宗の国清寺、天台宗の薬師寺の計九か寺である。

町の規模に対して数多い寺や神社が建立された背景には、網元や大地主を中心とした檀家集団の安定した経済力の他に、香西氏の拠点であった海城都市香西の戦略上の配置も関係していたといわれる。

*薬師寺は鬼無町是竹に属するが、古くは香西分であったことから香西九か寺に含む。大玄寺はその後廃寺されており、現存するのは九か寺中の八か寺。

2 宇佐八幡宮うさはちまんぐう

香西の宇佐八幡宮は磯崎山（藤尾山）山上にあり、地元では藤尾八幡宮、藤尾神社、お八幡さん、などと呼ばれて親しまれている。祭神は応神天皇、仲哀天皇、神功皇后じんぐうの八幡三神。もと笠居郷三村の郷社。

縁起によれば、承久の乱での功績で鎌倉幕府御家人となった香西資村しげむらが、嘉禄〜安貞年間（一二二五〜二九）に、佐料城、勝賀城の築城と同時期に豊前国宇佐八幡を勧請して創建。はじめ、山口村藤尾（現在の鬼無町山口）に神社が建てられ、その間の宇佐八幡宮は藤尾八幡と通称された。

続いて数年後、宇佐八幡宮（通称藤尾八幡）は現在地の香西磯崎山に移されたが、磯崎山に移ってから以前の遷座地（藤尾）の名が引き継がれ、藤尾八幡、藤尾神社、藤尾の宮などと呼ばれた。また磯崎山も藤尾山と呼ばれたという。

天正三年（一五七五）香西佳清（こさいよしきよ）のときに、長宗我部軍の讃岐侵攻への備えとして藤尾山に藤尾城が築城され、宇佐八幡宮は藤尾山から上の山に移された。一帯は藤尾合戦の舞台となった。

藤尾合戦後の藤尾城は、天正十三年（一五八五）、秀吉の四国征伐により廃城された。城として存続したのは、わずか十年間のみであった。藤尾城廃城後の慶長年中（慶長七年・一六〇二という）、藩主生駒公への地元の嘆願が許され、宇佐八幡が



宇佐八幡宮

再び藤尾山に戻り現在に至っている。

* 神社全域は藤尾城跡として高松市史跡。

* 宇佐八幡の石段下は、釣（香西本町）、会下^{えげ}（香西西町）、西打（香西南町）の接点。石段下から真つ直ぐ南へ延びる道は御^{みまや}厩道。

【子供の頃、朝五時にドンと鳴る「お八幡さんの一番太鼓」を聞いてとび起きた。続いてドン ドン ドンドン。白い装束のお大夫さんがミヤマのお社で大太鼓を打っている、そう思うとワクワクして今日一日が楽しい気持ちで始まった。太鼓を聞き終わると、夏でも冬でも家中の者を起こした。そうこうしよるうちに、一時間後の六時が来たら地藏院（香西寺）の朝の鐘が鳴る。太鼓は五時、鐘は六時。それが香西の毎日の始まり。】（古老からの聞き取り）

〔宇佐八幡 豊前の国から 海越えて〕（香西ふるさとかるた）

※八幡神 はちまんじん

わが国で八幡神が祭られたのは、八世紀の奈良時代における豊前宇佐八幡宮が初めてとされる。後に石清水八幡宮に勧請されて都の守護神となり、さらに源氏の氏神・守護神として鶴岡八幡宮つるがおかが建てられた後は、源氏の御家人たちにより武神として全国各地に分祀された。香西氏初代の資村が宇佐八幡を勧請したのは、この時期であった。

弓矢・武道の神として古来広く信仰された軍神・武神である八幡神の性格から、各地の八幡宮は、明治以後の軍国主義体制下で出征兵士の武運長久を祈願する国民精神動員の役割を果たす舞台ともなり、戦勝祈願の式典の場、村民の入営、入隊、出征の式典の場となった。戦後は憲法原則（平和主義・政教分離など）の下で諸願成就の神として庶民的な神社となった。

*全国各地の八幡宮には、明治く昭和期に行った対外戦争に関する石造物（記念碑・石碑・鳥居・しめ柱・玉垣など）が多数残されている。

*香西宇佐八幡宮には、「日露戦役従軍記念碑」、「大正三年乃至九年従軍者」の石板、「満州上
海事変凱旋記念」注連柱しめ、香西神社（旧忠魂社）などがあり、いずれも貴重な歴史資料。

※御厩道みまやみち

円座を起点に檀紙、御厩、鬼無を通って香西港へと続く脇往還。御厩側からは香西道と呼ばれた。戦後しばらくまでの御厩道は、トーカーが馬車や大八車に御厩焼（七輪・火鉢・ホーロク・クドなどの生活雑器）を満載して香西港まで運ぶ道であった。

御厩道のうち、宇佐八幡から鬼無駅の区間は、宇佐八幡神社でお祓いを受けた笠居郷内の出征兵士が、鬼無駅に向かう道でもあった。

※香西天満宮こうざいてんまんぐう

香西菅原神社。香西の天神さん。祭神は菅原道真。御神体は、道真が大宰府へ下る途中、笠居郷の磯部（現在の神在川窪町憂しが鼻）に停泊した船の上で描いたとされる自画像。この自画像は、転々とした後に高松市中野町の中ノ村天満宮に移されていたが、昭和二十年七月四日未明の高松空襲で焼失した。



香西天満宮



3

西光寺さいこうじ

海珠山慈眼院西光寺。創建時の山号は円海山。香西九カ寺の一つ。真言宗。創建は文和三年（一三五四・香西五郎殺害事件の翌年）。さぬき二十三観音霊場第三十三番（結願寺）。本尊十一面観世音菩薩は、毎年八月十日せんいちえの千日会せんいちえのとき開帳。

天正十年（一五八二）八月、西光寺表が藤尾合戦の激戦場となり、伽藍は兵火により損壊した。後に、本尊十一面観世音菩薩が海中より発見され、三十余年の空白期を経て慶長十九年（一六一四）に再建されたという。

*藤尾合戦で用いられた武器であると思われる多くの金属片が、天神川の付け替え工事の際に出土した。これらは西光寺境内の無縁仏供養場の下に埋められ供養された。

*境内に「香西記」の著者、新居直矩（一七二一〜一八〇二）の墓がある。墓石には直矩の顕彰がある。

*昭和十九年（一九四四）九月から一年間、大阪の学童疎開児童の宿舎となった。

※西光寺表さいこうじおもての合戦かっせん

西光寺縄手の合戦。天正十年（一五八二）八月五日に西光寺表で戦われた香西軍と長宗我部軍の戦い。

藤尾合戦大詰めの日、西光寺表に戦場を移して最後の死闘が繰り返された。土佐方は国吉三郎兵衛らを旗頭に三千余人、香西方は先鋒佐藤孫七郎ら五百余人が激闘、双方多くの武将が戦死した。この合戦の後、戦局は一気に終盤に入り香西方は降伏した。

※新居直矩にいなおのりぼ墓碑ひ

「香西記」の作者新居直矩の墓は西光寺にある。

※四つ角（香西の四つ角）

東西の高松道と南北の御廐道みまやみちが交差する四つ辻。古くは、笠居村の高札場があった。香西町（旧中笠居村）の中心に位置し、戦前までは小売り、金融、醸造、料理、理髪、呉服、薬局、旅館、仏壇屋、散宿所、タクシー、人力車、まんじゅう屋、八百屋、本屋など諸業種が集中した香西一の繁華街であった。香西町の道路元標は四つ角に設置された。

※香西港

舟入川（愛染川河口）に開けた港。時代によって漁港、軍港、物資の集散港などの性格を併せ持った。古名では舟入、舟入川、香西浦などともいう。

芝山が西風を防ぐ地理的好条件もあって古くから良港として整備され、香西水軍の母港、鯛網漁の基地としても栄えた。藩政時代には港みなとに所蔵てくらがあり、笠居村の年貢米は香西港に集められた。港の入り口には高松藩の船番所も設けられた。御廐道みまやみちの起点でもあった。



香西町の道路元標

明治末期からは港の西岸が機帆船の専用区域、東岸は漁船の繁留区域。平成初期まで香西漁業のウオノタナ（魚市場）があった。

【香西には一番多いときには四十〜五十隻の機帆船がいました。大きさとしては五十トンから百トンが普通です。中には二百トンの船もありましたが、百トンを越えると船の免許条件が難しくなるので、ほとんどの機帆船は百トンまでだったのです。自動車の話にたとえると、普通免許で運転できるのが百トンまでの船で、それを越すと特殊免許がいるわけです。】（古老からの聞き取り）

「今の明神橋の辺りは、その頃は「だいもじ」と呼んでいました。香西の港は大いに栄え、春は鯛や鱈の大漁で沸き、また讃岐平野の特産品を地方に送り出す港でした。木造の、大漁旗をひるがえした船から餅を投げてください。「だいもじ」に集まった大勢の人が、その餅を拾いました。香西港が一番栄えていたときでした。」（山田マスエ 朗読原稿）

4 万徳寺 まんとくじ

吉祥山多門院萬徳寺。真言宗大覚寺派。香西九か寺の一つ。本尊毘沙門天（多聞天）は三十三年に一度のご開帳。次のご開帳は平成三十年（二〇一八）。左右に善膩師童子ぜんにしと吉祥天を配する毘沙門三尊の形式が揃っており、貴重である。

寺伝によれば、天長七年（八三〇）三月、天長山祥福寺として毘沙門天を本尊に開基。国司時代の菅原道真公により修造がすすむ。その後承元年間（一一七〇〜一一八二）に寺号を西方寺と改め浄土宗に改宗、磯崎山の南に移る。

その後、寺域は磯崎山の西方、芝山の麓などに移され、寺号も宝持房と変えながら戦国期の兵火を逃れて本尊、寺宝類を護った。



万徳寺

江戸時代に入り宝持房の寺域を現在地に移し、宝永元年（一七〇四）八月、寺号を現在の吉祥山多門院万徳寺と変えて、真言宗大覚寺派となる。

* 山門に置かれている仁王（二天将）は、甲冑をつけた姿の独特の石像で幕末期の作。この仁王像については、幕末の怪力僧（万徳寺五世住僧、かんみょう観明法師）のほのぼのとした伝承がある。かつては正月三日に観明法師をしのぶ力餅大会があり、万徳寺への初詣はこの日が多かった。

「万徳寺中興五世、かんみょう観明法師は阿波に生まれた。背丈は低いが筋骨隆々とし、二百貫の庭石を独りで動かす怪力の持ち主であった。万徳寺門前の石像の仁王尊二基を大切にし、寒い夜は抱きかかえて寺内に移して翌朝また元の門前に運び出してやった。文久三年（一八六三）正月、川辺の定光寺に移り、そこで維新を迎えた。神仏分離令が出て定光寺が廃寺されたとき、寺の梵鐘を下ろして身体に結びつけ、高松まで運んで売ったという。」（香西史）

※万徳市

旧暦四月十二日の万徳市は、農業生活と密着して郷内で最も賑わう市であった。笠居郷の牛馬は、安全祈願を万徳寺で行うことが通例であり、祈禱を受ける牛は万徳寺の境内にも入った。牛のセリ市もあった。現在の万徳市は五月第二日曜日に行っているが、規模は小さくなった。

* 「万徳市は、笠居郷全域で最も人気のある春市。農家が春の耕作と麦刈りにかかる直前の市であり、農道具、苗物が多く出た。岡山、小豆島、直島、男木島、女木島などから船で人が来た。王越、高屋、大屋富からも船でやってきた。」（笠居郷風土記）

※万徳寺の大数珠繰り

正月（一月第二土曜日）の万福講で行われている百万遍の大数珠繰り。文化年間（一八〇四～一八一八）に香西に流行り病が広がったとき、万徳寺二世住職道峯法師が数珠繰りを行って病を治めたのが起源であるという。

※香西町軍人墓地

中笠居村および香西町出身の戦没者の墓碑を集めた墓地。軍人墓地として整備されたのは、護国精霊之墓を建立した昭和二十六年（一九五二）五月。墓地中央に高さ六メートルの護国精霊之墓が建ち、その奥左右に戦没者個人の墓碑三十六基が並ぶ。

個人の墓石の中で最も古いものは明治十年（一八七七）四月十二日、西南戦争に従軍し熊本県宇土郡で戦死した今竹清次氏（二十四歳）。

次いで日清戦争戦死者二基、日露戦争戦死者七基、以下第一次大戦、シベリア出兵、日中戦争、太平洋戦争の戦死者の墓標が続く。戦死者の墓標三十六基によって、明治憲法下の日本が行った全ての対外戦争をたどることができる。

＊護国精霊之墓は県内初の忠霊塔。碑文（慰霊文）はなく、台座には西南戦争以後第二次大戦までの約七十年間に戦没した香西町出身者二百九名の名前を刻んで寄せ墓にしてある。

＊第二次大戦の墓標の中には、昭和十九年（一九四四）十月二十六日神風特別攻撃隊大和隊の隊員としてフィリピンセブ島から出撃、スリナガ洋上で特攻死した勝浦茂夫氏（二十歳）の墓がある。海軍の神風特攻隊攻撃の開始後わずか二日目の特攻死である。

※学童疎開と香西

昭和十九年（一九四四）九月、香西の四か寺（万徳寺、西光寺、常善寺、長安寺）は、大阪からの学童疎開児童百五十五名を受け入れた。

集団疎開の対象は、国民学校初等科三〜六年の全児童と一〜二年の希望児童であり、昭和二十年春には、全国で四十万を超える（四十五万ともいう）児童が都市部からの疎開を完了した。

香川県は大阪府との間で疎開受け入れを合意し、昭和十九年（一九四四）九月以降、最終的には一万千七百六十九人を受け入れたという。このとき香西町には、大阪市港区本市岡国民学校の児童の百五十五名の疎開があり、万徳寺（四十五名）、西光寺（四十五名）、常善寺（三十三名）、長安寺（三十二名）を宿舎に昭和二十年（一九四五）十月末まで生活した。疎開児童受け入れの本部は万徳寺に置かれた。

5 香西寺

ホウドウジヤ

宝幢山地蔵院香西寺。永く地蔵院と院号で呼ばれてきた。真言宗大覚寺派。本尊は宝幢（仏法の目印の旗）を胎内に納めた地蔵菩薩（秘仏、非公開）。数度の火災による焼失などもあり、創建

後の寺域・寺号は数度にわたり変遷している。寛文九年（一六六九）、讃岐藩主松平頼重の命により寺域が現在地に移され、寺号は香西寺と定まって現在に至っている。

四国霊場番外札所（四国別格二十霊場）第十九番、さぬき七福神（毘沙門天）の寺として遍路の巡拝も多い。

*梵鐘は正徳三年（一七一三）九月鑄造。長く明け六つ（午前六時）と暮れ六つ（午後六時）に時鐘が搦かれていた。

*昭和五十一年（一九七六）、本堂前広庭の龍雲松が枯死。平成五年（一九九三）には門前のネゼリ松が枯死した。

*毎年一月第三日曜日に初大師大護摩の密教儀式が行われる。



香西寺（山門）

※地蔵院じぞういん（香西の地蔵院）

香西寺の旧称、通称。香西寺（宝幢山地蔵院香西寺）の本尊が延命地蔵であり、院号が地蔵院であることから、かつての香西寺は地蔵院と呼ばれることが多かった。

*かつて地蔵院という院号で呼ばれることが通例であった讃岐の大寺は、香西寺（東の地蔵院）と萩原寺（西の地蔵院）の二寺であった。この二寺に長尾の宝蔵院を合わせて「讃岐の三蔵院」とも呼ばれていた。

※談議所だんぎしよ

談義所。僧徒学問所。談議（談義）ものごときの道理を説き聞かせること。經典の意義を説くこと（）の中心となる場所、あるいは寺。

香西寺は、かつて讃岐四談議所の筆頭寺であり、多くの会下えげ（修行僧）が集まり修行した。香西寺の近くには、今も会下えげという地域がある。

※毘沙門天^{びしゃもんてん}

昭和十六年（一九四一）十一月指定の国重要文化財。平安初期、藤原時代前期の弘仁仏。作者不詳。檜一木丸彫像。像丈三尺三寸（一メートル）。昭和三十六年（一九六一）竣工の毘沙門堂に安置されている。

「木造毘沙門天立像 重要文化財 昭和十六年十一月六日 国指定

毘沙門天は、革甲^{かわよろい}や脰^こを身に付け、塔^はと鉾^{ほこ}を持ち、足には脛甲^{けいこう}を付けて沓^{くつ}をはき、伏した邪鬼^まの上に立つ。平安時代に、四天王のうち多聞天が独立し、毘沙門天の尊称で武神・富貴神として庶民信仰を集めるようになった。当寺のご本尊である毘沙門天像は、重厚な中に穏やかさを秘めるお顔と、リリしい武将の姿で腰をやや左にひねった自然な立ち姿勢から、藤原時代前期（平安中期）の特徴がうかがわれる。身の丈は、百一センチ、檜の一木造りで、当初は全身に彩色を施していたものと考えられ、下地の胡粉^{こふん}が見えている箇所がある。当寺は、奈良時代に勝賀山東麓^{かへる}の奥堂^{おくどう}の地に建立され、寺号は勝賀寺といった。この像はそこから移されたと伝わっている。」（高松市教育委員会 現地説明板）

※天正年間笠居郷古絵図

天正年間香西城下古絵図ともいう。永く香西寺に伝えられてきた寺宝。香西氏滅亡の前に、香西氏ゆかりの者が描かせた絵図であると思われるが、作者不明、詳細不明である。

6 国清寺

光明山浄業院国清寺。浄土宗智恩院派。本尊阿弥陀如来立像。讃岐浄土四か寺の一つ。延宝四年（一六七六）、藩主松平頼重が建立した、いわゆる殿様寺。

松平頼重は、安原村東谷の極楽寺を笠居村に移築して国清寺とし、上の山かみを含む寺領五十石を給した。

*藩主松平頼重が建立・中興した浄土宗寺院としては、法然寺、讃岐浄土四か寺（国清寺、栄国寺、東林寺、真福寺）、西方寺などがある。

〔国清寺 高松候より お扶持米〕（香西ふるさとかるた）

「国清寺、栄国寺、東林寺、真福寺この四か寺は、頼重中興にて建立せしむるの間、住持たる者は報恩のため各登山致し法事相勤む可し。」（仏生山条目）

明治二十一年（二八八八）十一月、国清寺の門前に香西尋常小学校が設置され、その後の国清寺は昭和初期まで、しばしば香西小学校の分教場となった。

【参考文献】

- 『笠居郷風土記』高松市西部民俗調査団 一九八六
『香西記』新居直矩（香川叢書第三卷／一九三九）
『香西史』香西町編 一九三〇
『新香西史』本田忠雄 一九六五
『郷土史事典 笠居郷探訪』立山信浩 二〇一一

【参考…香西の神社】

コクンゾさん…本津の虚空蔵堂

ヒッチンさん（ヘツツイ（竈）神社）

いなぐらじんじや

うかどう

稲倉神社／宇賀堂

えげこうじんじや

会下荒神社

えびすじんじや

恵比須神社

おおうちじんじや

大内神社

きんせい はちまんじんじや

金勢八幡神社

こうざいじんじや

香西神社

こうざいてんまんぐう

香西天満宮

こうらじんじや

高良神社

さんじんぐう

三神宮

さんわじんじや

三和神社

しばやまじ

芝山寺

しばやまじんじや

芝山神社

ふなだましんじや

船玉神社

ぜんこうじせつきょうしよ

善光寺説教所

そうげんじ

宗玄寺…旧跡

ぞうろくあん

蔵六庵…旧跡

たていしだいみょうじん

立石大明神

たまひめじんじや

玉姫神社

なかつかかもじんじや

中塚賀茂神社

ひらがじんじや

平賀神社

ひらがりゅうおうぐうこんげんしや

平賀龍王宮権現社

ひろたじんじや

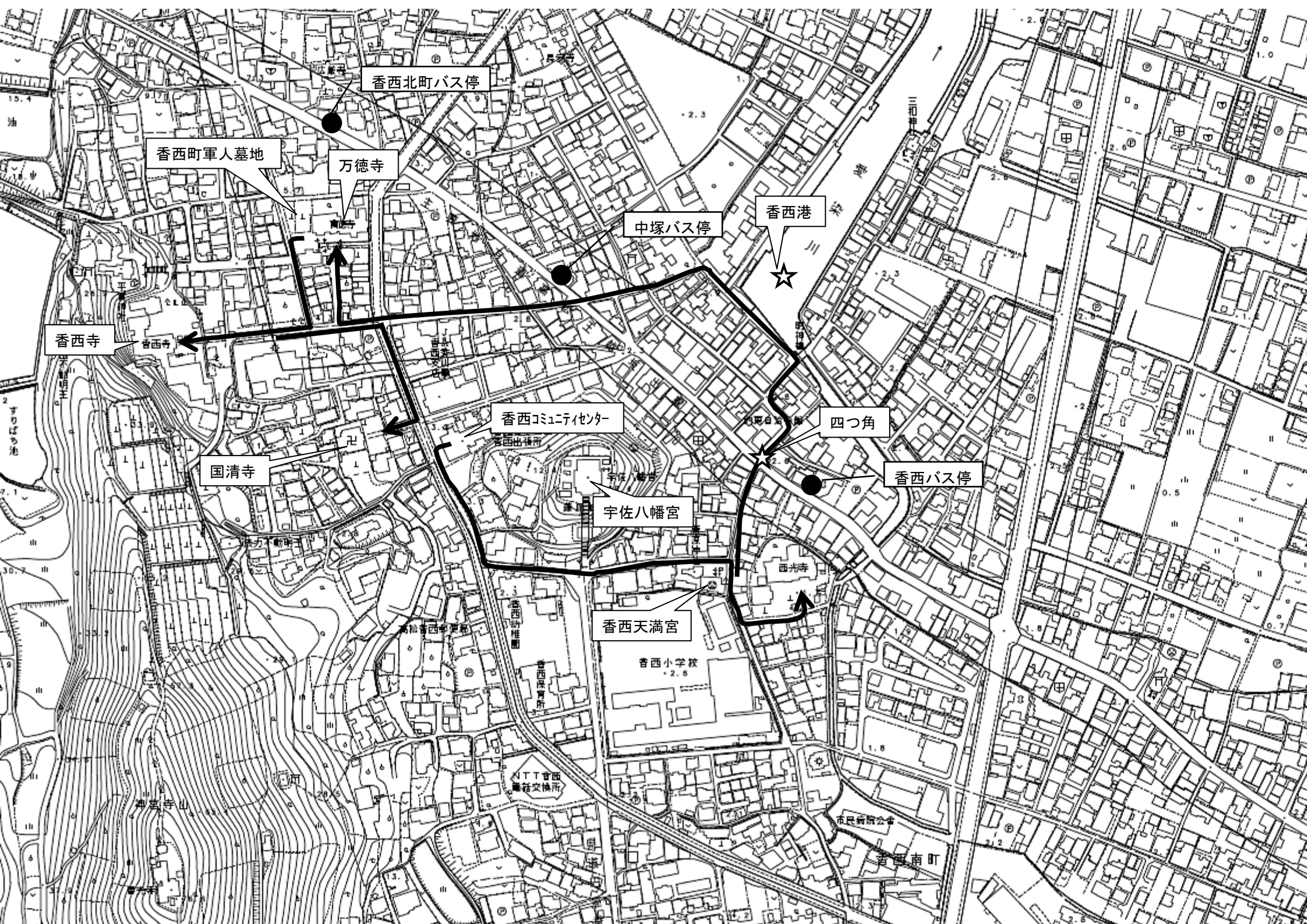
広田神社

まつおじんじや

松尾神社

しほがしんじや

塩釜神社



香西北町バス停

香西町軍人墓地

万徳寺

中塚バス停

香西港

香西寺

香西コミュニティーセンター

四つ角

国清寺

香西バス停

宇佐八幡宮

香西天満宮

香西小学校

NTT香西
電話交換所

市民病院公舎

香西南町

12月15日（日） 香西からの復路

ことでんバス【高松駅行き】

(香西北町)		(中塚)		(香西)		(高松駅)
12:06	→	12:07	→	12:08	→	12:34
12:37	→	12:38	→	12:38	→	12:59

次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 讃岐国府跡を訪ねる

とき 平成26年1月26日（日）

9:30～12:00頃

集合場所 香川県埋蔵文化財センター

講師 信里 芳紀さん（香川県埋蔵文化財センター職員）

☆開催案内は広報「たかまつ」1月15日号に掲載しますので、
ご覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課（TEL 839
-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。

（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★-----

JR予讃線（下り）

(高松駅)		(讃岐府中駅)
8:15	→	8:40
8:57	→	9:15



「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を
一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけ
ましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。